秋田県幼稚園・保育所・認定こども園等

自己到達目標評価表

（令和６年度版）

ダウンロード先

秋田県教育庁幼保推進課保育情報サイト
「わか杉っ子元気に！ネット」
「研修情報」／「研修に係るお知らせ」／「各研修に係る様式等について」／「自己到達目標評価表」

秋 田 県 教 育 委 員 会

秋田県幼稚園・保育所・認定こども園等
「自己到達目標評価表」目次

活用に当たって・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ１

令和６年度秋田県幼稚園・保育所・認定こども園等
自己到達目標評価表【第１ステージ（１～３年目）】・・・・・・・・・　Ｐ３

令和６年度秋田県幼稚園・保育所・認定こども園等
自己到達目標評価表【第２ステージ（４～１０年目）】・・・・・・・・　Ｐ５

令和６年度秋田県幼稚園・保育所・認定こども園等
自己到達目標評価表【第３ステージ（１１年目～）】・・・・・・・・・　Ｐ７

記入例 令和６年度秋田県幼稚園・保育所・認定こども園等
自己到達目標評価表【第１ステージ（１～３年目）】・・・・・・・・・・　Ｐ10

Ｑ＆Ａコーナー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ12

活用に当たって

乳幼児やその保護者を取り巻く環境の変化に伴い、社会は幼稚園・保育所・認定こども園等の保育者に対し、より高い専門性を求めています。その中で、いつの時代にも保育者に求められる、乳幼児を理解し、意図的・計画的に総合的な保育を行うために必要な資質能力は、「不易」の部分として位置付けられ、常に原点に立ち返って向上させていくべきものです。したがって、実際に保育に当たる保育者には、これまで以上に乳幼児の主体的な活動を支えるための保育力や専門性が求められています。

秋田県では、平成 30 年度、教員の養成・採用・研修を通じた新たな研修体制を構築するための指標「秋田県教員育成指標」（現「秋田県教職キャリア指標」）を策定するとともに、この教員育成指標を踏まえて「秋田県教職員研修体系」を改訂しました。今回の教職員研修体系の改訂に当たっては、研修基調を「キャリアステージに応じた資質能力の向上を目指す総合的・体系的な研修」とし、若手教職員同士が切磋琢磨し合い実践的指導力を高める機会を確保すること、学校の活性化に不可欠な中堅教職員の力量を向上させること、ベテラン教職員の若手教職員を育成する力を向上させることなどを念頭に、教職生活全体を通じて互いに高め合う研修体制の一層の充実を意図して改善を図りました。

幼稚園・保育所・認定こども園等の保育者が、小学校以降の教育を支える根幹的な役割を担っていることを踏まえ、県教育委員会では秋田県教職員研修体系に基づき研修を実施しております。平成 29 年３月、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂及び保育所保育指針の改定が行われました。県は、その趣旨を実現するため、「秋田県教職キャリア指標」と「秋田県教職員研修体系」に基づき、各キャリアステージで求められる資質能力（到達目標）を明確にするとともに、自己の資質能力の向上に向けた取組と評価ができる「自己到達目標評価表」を作成しました。

幼稚園・保育所・認定こども園等の保育者の皆様には、本冊子の趣旨を十分御理解いただくとともに、次の１～３のような活用の仕方を参考に積極的に活用されることを期待しています。

1　中・長期的な活用（採用から管理職まで中・長期的に活用）

・各キャリアステージで求められる資質能力の目安を理解する

・自分に必要な資質能力の理解と、資質能力の向上を図る見通しをもつ

・園長等の管理職が、各保育者の評価に目を通すことで、各保育者の成長を把握し、より細やかな支援の参考とする

2　短期的な活用（１年単位で活用）

（１）自分の目標をもつために

・自分の現在の資質能力を把握する

・自分の得意・不得意な分野を把握する

・自分の現状（園での立場、現在の資質能力、得意・不得意な分野等）に合致するキャリアステージを選択し、資質能力の向上の目安とする

・年度毎に自分の重点目標と重点目標達成に向けた方法を設定し、年度途中に評価・改善を行うことで、自分の保育実践に生かす

（２）各保育者に応じた研修計画の作成のために

・各保育者の資質能力（各分野別の資質能力等）に応じた園外研修先を検討する

・各保育者の資質能力（各分野別の資質能力等）の分析により、園内研修の内容（テーマ別研修等）を検討する

3　園の運営に活用

・各保育者の資質能力を考慮した園務分掌を検討する

・園長等との面談等に活用し、各保育者の自己評価に対し、適切な評価と助言をする

・保育者の自己評価アンケート項目の参考とする

・園評価項目の参考とする

令和 6年度秋田県幼稚園・保育所・認定こども園等　自己到達目標評価表

秋田県教育庁幼保推進課指導チーム

【第1ステージ（1～3年目）】

No.	園名	名前	経験年数	園内での担当

分野	到達目標 （自己評価　A:できる　B:おおむねできる　C:やや努力を要する　D:努力を要する）	評価Ⅰ 月	評価Ⅱ 月	評価Ⅲ 月
A マネジメント力	**①全体的な計画・教育課程の理解と実践**			
	園の教育・保育目標や全体的な計画・教育課程の内容について理解することができる。			
	乳幼児の実態に応じた、クラスの長期・短期の指導計画を作成することができる。			
	保護者との連携を十分に図り、乳幼児一人一人の生活について理解し、乳幼児の実態を把握することができる。			
	②園目標のクラス経営への反映			
	クラスの長期・短期の指導計画に基づいた実践を行い、先輩保育者等の助言・支援の下、指導の過程について評価を行い、指導計画の改善を図ることができる。			
	③園運営への参画			
	組織の一員として自覚をもち、協力的な態度で、自己に与えられた園務の内容を理解し、遂行できる。			
	園務を遂行する上で生じた課題について迅速な報告・連絡・相談をすることができる。			
	園務執行に必要な情報活用スキルを身に付け、正確な園務処理をすることができる。			
	④危機に対応できる管理能力			
	事故防止の取組について理解し、乳幼児が安心・安全に生活できる保育の場の環境を整備することができる。			
	危険を察知した際は、管理職の指示の下、迅速な対応等を行うことができる。			
	⑤小学校教育との円滑な接続			
	小学校教育との円滑な接続の意義を理解し、ねらいを明確にもちながら、保育や交流活動等を実施することができる。			
	⑥地域人材や資源、情報の活用			
	地域・関係機関との連携の意義を理解し、ねらいを明確にもちながら、地域の資源を活用することができる。			
	情報モラルや情報セキュリティを理解し、業務に必要な情報を適切に取り扱うことができる。			
	年度末評価　A　0　%　B　0　%　C　0　%　D　0　%			
B 専門的指導力	**①基本的乳幼児理解に基づき指導・支援する力**			
	管理職や先輩保育者等の助言の下、乳幼児一人一人の発達の特性を理解し、その特性やその乳幼児が抱えている発達の課題を把握し、保育に生かすことができる。			
	管理職や先輩保育者等の助言の下、乳幼児一人一人の発達の特性を踏まえ、それぞれの集団の中で、一人一人が主体的に周囲の環境に関わり、安心して自己発揮できるような保育をすることができる。			
	②家庭と共に課題を克服する力			
	連絡帳や園・クラスだより、電話、面談等を用いて、家庭と連携を図ることができる。			
	地域における子育て支援や、預かり・延長保育等、園の弾力的な運用について理解し、実践することができる。			
	年度末評価　A　0　%　B　0　%　C　0　%　D　0　%			
C 保育実践力	**①保育における基本的な指導力**			
	環境の構成及び保育者の関わり等について、乳幼児の発達の理解に基づき、教材を工夫したり、乳幼児の実態に応じた環境を意図的に構成したりすることができる。			
	乳幼児一人一人の内面を理解し、個の思いに寄り添った関わりをすることができる。			
	記録や評価の重要性を理解し、ねらいに対する記録や評価をすることができる。			
	日々の保育を振り返り、次の実践及び改善に生かすことができる。			

C 保育実践力	**②秋田の探究型保育の実践力**			
	乳幼児が周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、興味・関心を抱いたことに存分に取り組むことができるような保育を展開することができる。			
	周囲との関わりの中で相手の思いや考えを受け入れ、経験したことを生かすことができるような保育を行うことができる。			
	③保育研究・保育改善を推進する実行力（ICT活用を含む）			
	園内外の研修会（研究会）の目的を理解した上で参加し、研修内容を他の保育者に報告したり、自身の保育等に活用したりすることができる。			
	研修会（研究会）に積極的に参加し、研修の成果や課題を生かし、自身の保育等を改善することができる。			
	乳幼児の直接的体験との関連を考慮し、保育の中で情報機器を活用することができる。			
	年度末評価	A 0 %	B 0 %	C 0 %	D 0 %
D 本県の教育課題への対応	**①ふるさと教育・キャリア教育の推進**			
	ふるさと教育・キャリア教育について理解し、身近な地域や自然環境の中で、積極的に人やものとの関わりを深める保育を展開することができる。			
	②“「問い」を発する子ども”の育成			
	“「問い」を発する子ども”の育成について理解し、安心できる環境の下、子どもが自己発揮できたり子どもの思いを受け止めたりする保育を展開することができる。			
	③特別な配慮を必要とする子ども一人一人の教育的ニーズに応じて指導・支援する力			
	特別支援教育、交流及び共同学習の意義やねらいについて理解することができる。			
	障害のある乳幼児の障害の種類や程度、特性等を理解することができる。			
	管理職や先輩保育者等の助言・援助の下、障害のある乳幼児に対して、個に応じた指導や支援をすることができる。			
	管理職や先輩保育者等の助言・援助の下、海外から帰国した乳幼児や日本語の習得に困難のある乳幼児に対して、個に応じた指導や支援をすることができる。			
	年度末評価	A 0 %	B 0 %	C 0 %	D 0 %

◆評価を踏まえ、2つの重点目標を設定して取り組みましょう。

分野	重点目標1（評価Ⅰを踏まえて）	分野	重点目標2（評価Ⅰを踏まえて）
	目標：		目標：
	方法：		方法：
	評価Ⅱ（　）		評価Ⅱ（　）
分野	重点目標1（評価Ⅱを踏まえて）	分野	重点目標2（評価Ⅱを踏まえて）
	目標：		目標：
	方法：		方法：
	評価Ⅲ（　）		評価Ⅲ（　）
	次年度に向けて：		次年度に向けて：

ダウンロード先：「わか杉っ子元気に！ネット」⇒「研修情報」⇒「研修に係るお知らせ」⇒「各研修に係る様式等について」⇒「自己到達目標評価表」

令和6年度秋田県幼稚園・保育所・認定こども園等　自己到達目標評価表

秋田県教育庁幼保推進課指導チーム

【第2ステージ（4～10年目）】

No.	園名	名前	経験年数	園内での担当

分野	到達目標 （自己評価　A:できる　B:おおむねできる　C:やや努力を要する　D:努力を要する）	評価Ⅰ 月	評価Ⅱ 月	評価Ⅲ 月
A マネジメント力	**①全体的な計画・教育課程の理解と実践**			
	園の教育・保育目標や、全体的な計画に係る各種計画の相互関係、教育課程の内容等について理解することができる。			
	園の教育・保育目標や全体的な計画に係る各種計画の相互関係、教育課程の内容等についての理解を踏まえ、乳幼児の実態に基づいた学年（クラス）の長期・短期の指導計画を作成することができる。			
	保護者との連携を十分に図り、乳幼児一人一人の生活や遊びの実態を把握することができるとともに、学年（クラス）の保護者に対し、乳幼児期の保育に関する理解が深まるように園での様子を伝えることができる。			
	②園目標のクラス経営への反映			
	学年（クラス）の長期・短期の指導計画に基づいた実践を行い、指導の過程について評価を行い、指導計画の改善を図ることができる。			
	全体的な計画に係る各種計画の取組状況について、成果と課題を明らかにし、建設的な改善策を提案することができる。			
	③園運営への参画			
	組織の一員として自覚をもち、分掌組織全体を見ながら、他の保育者と連携して遂行できる。			
	自己に与えられた園務について評価し、改善の意識をもって園運営に参画することができる。			
	園務執行に必要な情報活用スキルを習得し、正確かつ迅速な学年（クラス）事務の処理をすることができる。			
	④危機に対応できる管理能力			
	園全体の危機管理を理解し、乳幼児が安心・安全に生活できる園内環境の整備をすることができる。			
	危険を察知した際は、他の職員と連携して、迅速な対応等を行うことができる。			
	⑤小学校教育との円滑な接続			
	小学校教育との円滑な接続の意義の理解を踏まえ、小学校の教員と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに幼児の姿の共有をし、育ちのつながりを意識した保育や交流活動等を実施することができる。			
	⑥地域人材や資源、情報の活用			
	地域・関係機関との連携の必要性を理解し、地域の資源を活用するとともに、在園児の諸課題に対し、園長等の助言を得ながら、地域・関係機関と連携することができる。			
	情報モラルや情報セキュリティについて、保護者に対し理解啓発を図ることができる。			
	年度末評価　A　0　%　B　0　%　C　0　%　D　0　%			
B 専門的指導力	**①基本的乳幼児理解に基づき指導・支援する力**			
	乳幼児一人一人の発達の過程や背景を踏まえながら、発達の特性や課題を把握し、他の保育者と連携して、一人一人に応じた保育をすることができる。			
	乳幼児一人一人の発達の特性を踏まえ、それぞれの集団の中で、乳幼児が主体的に活動し多様な体験ができるように人との関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わえることを意識した保育ができる。			
	②家庭と共に課題を克服する力			
	日常の様々な機会を通して、保護者の状況を理解し、家庭と適切かつ密接な連携を図ることができる。			
	地域における子育て支援や、預かり・延長保育等、園の弾力的な運用について、他の職員と連携し実践することができる。			
	年度末評価　A　0　%　B　0　%　C　0　%　D　0　%			
C 保育実践力	**①保育における基本的な指導力**			
	乳幼児の実態や一人一人の発達の過程を的確に把握し、主体的な遊びや生活を支える意図的・計画的な環境の構成をすることができる。			
	乳幼児一人一人の内面の理解を深め、個の思いに寄り添った関わりをすることができる。			
	他の保育者との連携の下、個や集団の育ちに目を向け、記録等を基に評価・分析を行うことができる。			
	評価・分析した保育を次の実践及び改善に生かすことができる。			

C 保育実践力	**②秋田の探究型保育の実践力**			
	乳幼児が自ら環境に関わり、試行錯誤したり、考えたりすることができるような保育を展開することができる。			
	乳幼児の主体性や問題解決をしていこうとする姿を育む体験や遊びの充実を目指した保育を行うことができる。			
	③保育研究・保育改善を推進する実行力（ICT活用を含む）			
	園内研修の企画や運営に参画し、保育者の資質向上を図るとともに、園内研修において園長等と後輩をつなぐ役割を担うことができる。			
	自身の課題をもって園外研修に参加し、研修内容の報告等により保育者間での共有化を図ったり、自身の保育等の改善に生かしたりすることができる。			
	乳幼児の直接的体験との関連を考慮し、情報機器を使用する目的や必要性を自覚しながら、保育の中で情報機器を活用することができる。			
	年度末評価	A 0 %	B 0 %	C 0 %	D 0 %
D 本県の教育課題への対応	**①ふるさと教育・キャリア教育の推進**			
	ふるさと教育・キャリア教育について理解し、身近な地域や自然環境の中で、直接的・具体的な体験や、地域の人材や素材と関わる体験を取り入れるなど、発達に応じた保育を展開することができる。			
	②“「問い」を発する子ども”の育成			
	“「問い」を発する子ども”を育成するため、乳幼児自ら主体的に環境と関わり、興味・関心を抱いたことに存分に取り組むための手立てや援助を工夫しながら保育を展開することができる。			
	③特別な配慮を必要とする子ども一人一人の教育的ニーズに応じて指導・支援する力			
	特別支援教育についての理解を深め、指導計画に生かすことができる。			
	障害のある乳幼児等との交流及び共同学習を計画・実施し、意義のある体験となるため、改善を図ることができる。			
	障害のある乳幼児の障害の種類や程度、特性等を把握し、個に応じた手立てを工夫することができる。			
	個別の教育・保育支援計画及び個別の指導計画等を作成し、指導や支援、指導の改善をすることができる。			
	海外から帰国した乳幼児や日本語の習得に困難のある乳幼児について、個々の実態に応じた指導や支援をし、安心して自己発揮できる配慮をすることができる。			
	年度末評価	A 0 %	B 0 %	C 0 %	D 0 %

◆評価を踏まえ、2つの重点目標を設定して取り組みましょう。

分野	重点目標1（評価Ⅰを踏まえて）	分野	重点目標2（評価Ⅰを踏まえて）
	目標：		目標：
	方法：		方法：
	評価Ⅱ（　）		評価Ⅱ（　）
分野	重点目標1（評価Ⅱを踏まえて）	分野	重点目標2（評価Ⅱを踏まえて）
	目標：		目標：
	方法：		方法：
	評価Ⅲ（　）		評価Ⅲ（　）
	次年度に向けて：		次年度に向けて：

ダウンロード先：「わか杉っ子元気に！ネット」⇒「研修情報」⇒「研修に係るお知らせ」⇒「各研修に係る様式等について」⇒「自己到達目標評価表」

令和 6年度秋田県幼稚園・保育所・認定こども園等　自己到達目標評価表

秋田県教育庁幼保推進課指導チーム

【第3ステージ（11年目～）】

No.	園名	名前	経験年数	園内での担当

分野	到達目標 （自己評価　A:できる　B:おおむねできる　C:やや努力を要する　D:努力を要する）	評価Ⅰ 月	評価Ⅱ 月	評価Ⅲ 月
A マネジメント力	**①全体的な計画・教育課程の理解と実践**			
	園の教育・保育目標や、全体的な計画に係る各種計画の相互関係、教育課程の内容等について理解し、乳幼児の実態、家庭生活との連続性に基づく学年（クラス）の長期・短期の指導計画について、多面的に評価を行い、指導計画の改善を図ることができる。			
	全体的な計画に係る各種計画の相互関係を考慮し、各種計画の作成に参画することができる。			
	園生活が家庭や地域社会との連続性を保ちつつ展開されるように、保護者や地域社会との連携を図ることができる。			
	長期・短期の指導計画の作成について、他の保育者に適切な助言・支援を行うことができる。			
	②園目標のクラス経営への反映			
	園の教育・保育目標の実現、全体的な計画に係る各種計画への取組状況について、成果と課題を客観的に分析し、その改善策を次年度の計画に反映することができる。			
	長期・短期の指導計画に基づいた実践の評価や改善について、他の保育者に適切な助言・支援を行うことができる。			
	③園運営への参画			
	乳幼児の心身の発達と園、家庭及び地域の実態に即応した全体的な計画の作成や教育課程の編成に参画することができる。			
	園運営の課題に建設的な改善策を提案し、園運営に積極的に参画することができる。			
	分掌組織全体を把握し、他分掌と連絡調整を図りながら分掌業務に当たることができる。			
	他の保育者の事務の点検を行うとともに、園務処理について、適切かつ的確な助言・支援をすることができる。			
	④危機に対応できる管理能力			
	園全体の危機管理の理解を踏まえ、乳幼児が安心・安全に生活できる園内外の環境への配慮や指導の工夫をし、必要な対策を講じることができる。			
	危険を察知した際は、管理職の指示を踏まえつつ、他の保育者が迅速な対応ができるように、リーダー的役割を果たすことができる。			
	園の安全計画、保健計画、危機管理マニュアル等の作成に参画するとともに、避難訓練等を実施する等、必要な対応を図ることができる。			
	⑤小学校教育との円滑な接続			
	小学校教育との円滑な接続に向けた、小学校の教員との「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりにした幼児の姿の共有を通して、学びや育ちの連続性を意識して指導計画を作成し、実施することができる。			
	小学校教育との円滑な接続に向けた互恵性のある交流・連携を積極的に推進することができる。			
	育ちや学びの連続性を意識した指導計画の作成や交流・連携の実施について、他の保育者に適切な助言・支援を行うことができる。			
	⑥地域人材や資源、情報の活用			
	地域における園の役割を踏まえ、地域・関係機関との連携及び協力体制を構築し、在園児や地域の子どもの諸課題に対する取組を推進することができる。			
	地域との交流活動等の実施や地域・関係機関との連携について、他の保育者に適切な助言・支援を行うことができる。			
	情報モラルや情報セキュリティについて、子育て支援の観点から保護者や他の保育者に適切な指導・助言を行うことができる。			
	年度末評価　A　0　%　B　0　%　C　0　%　D　0　%			

B 専門的指導力	**①基本的乳幼児理解に基づき指導・支援する力**			
	乳幼児一人一人の発達の過程や背景を踏まえながら、発達の特性や課題を把握し、一人一人に応じた適切な保育をすることができる。			
	乳幼児一人一人の発達の特性を踏まえ、それぞれの集団の中で、乳幼児が主体的に活動し多様な体験ができるように人との関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わえることを意識した環境の構成や保育の展開ができる。			
	乳幼児一人一人の内面やその背景に応じた保育や乳幼児の個の成長と集団としての活動の充実が図られる保育について、他の保育者に適切な助言・支援を行うことができる。			
	②家庭と共に課題を克服する力			
	保護者の状況や家庭の背景を把握し、家庭と適切かつ密接な連携を図り、子育て相談に応じることができる。			
	地域における子育て支援や、預かり・延長保育等の園の弾力的な運用について、園内での周知と保護者への発信をすることができる。			
	保護者との関わり方や子育て支援と預かり・延長保育等の園の運用について、他の保育者に適切な助言・支援を行うことができる。			
	年度末評価	A 0 %	B 0 %	C 0 %	D 0 %
C 保育実践力	**①保育における基本的な指導力**			
	乳幼児の実態や一人一人の発達の過程を把握するとともに、園の課題を的確に捉え、主体的な遊びや活動を支える意図的・計画的な環境の構成を行うことができる。			
	乳幼児の実態や一人一人の興味・関心、心の動きに応じた保育の展開や関わりの充実が図られた保育をすることができる。			
	保育の実践及び改善について、他の保育者に、保育実践や記録等による評価・分析に基づいた助言・支援を行うことができる。			
	評価・分析に基づき、保育の改善及び指導計画等の改善を図ることができる。			
	②秋田の探究型保育の実践力			
	乳幼児が自ら環境に関わり、試行錯誤したり、考えたりすることができるような、心を動かされる体験や遊びを、育ちの方向を意識して取り入れたり展開したりすることができる。			
	乳幼児の主体性や問題解決をしていこうとする姿を育む体験や遊びの充実について、他の保育者に適切な助言・支援を行うことができる。			
	③保育研究・保育改善を推進する実行力（ICT活用を含む）			
	教育・保育の質を高めるため、中核的リーダーとなって、園内研修を計画的・継続的に推進することができる。			
	課題意識をもって園外研修に参加し、園内研修への活用や園の諸課題の解決に向けた方策につなげることができる。			
	園の情報機器環境の整備をし、保育の中での情報機器の活用を推進するとともに、活用について、他の保育者に助言・支援を行うことができる。			
	年度末評価	A 0 %	B 0 %	C 0 %	D 0 %
D 本県の教育課題への対応	**①ふるさと教育・キャリア教育の推進**			
	ふるさと教育・キャリア教育についての理解を踏まえ、校種間や地域との連携を計画的に取り入れ、乳幼児の発達に応じた体験や、地域の人材や素材と関わる体験を充実させることができる。			
	乳幼児期のキャリア教育のねらいや必要性を家庭や地域に発信することができる。			
	②“「問い」を発する子ども”の育成			
	乳幼児の自発的な活動としての遊びの中で、他者との関わりを通じて、主体的に問いを解決していく子どもを育む保育を展開するとともに、指導計画の作成・改善を行うことができる。			
	“「問い」を発する子ども”の育成を目指した手立ての工夫や援助について、他の保育者に適切な助言をすることができる。			

D 本県の教育課題への対応	③特別な配慮を必要とする子ども一人一人の教育的ニーズに応じて指導・支援する力			
	個に応じた指導内容や指導方法について、成果と課題を分析し、指導計画の改善に生かすことができる。			
	障害のある乳幼児等との交流及び共同学習が組織的に計画的・継続的な活動となるよう見直しを行い、充実を図ることができる。			
	関係機関との連携を図り、障害のある乳幼児の障害の種類や程度、特性等に応じた保育や支援、各指導計画の作成・改善をすることができる。			
	障害に関する知識や配慮等についての正しい理解と認識を深め、障害のある乳幼児の保育や支援について、他の保育者に適切な助言・支援を行うことができる。			
	海外から帰国した乳幼児や日本語の習得に困難のある乳幼児について、個々の実態に応じた保育を組織的・計画的に行うことができる。			
	必要に応じて関係機関や地域と連携しながら、乳幼児と保護者に組織的で適切な対応をすることができる。			
	年度末評価	A 0 % B 0 % C 0 %	D 0 %	

◆評価を踏まえ、2つの重点目標を設定して取り組みましょう。

分野	重点目標1（評価Ⅰを踏まえて）	分野	重点目標2（評価Ⅰを踏まえて）
	目標：		目標：
	方法：		方法：
	評価Ⅱ（　）		評価Ⅱ（　）
分野	重点目標1（評価Ⅱを踏まえて）	分野	重点目標2（評価Ⅱを踏まえて）
	目標：		目標：
	方法：		方法：
	評価Ⅲ（　）		評価Ⅲ（　）
	次年度に向けて：		次年度に向けて：

ダウンロード先：「わか杉っ子元気に！ネット」⇒「研修情報」⇒「研修に係るお知らせ」⇒「各研修に係る様式等について」⇒「自己到達目標評価表」

記入例

令和 6年度秋田県幼稚園・保育所・認定こども園等　自己到達目標評価表
秋田県教育庁幼保推進課指導チーム

【第1ステージ（1～3年目）】

No.	園名	名前	経験年数	園内での担当

分野	到達目標 （自己評価　A:できる　B:おおむねできる　C:やや努力を要する　D:努力を要する）	評価Ⅰ 4月	評価Ⅱ 10月	評価Ⅲ 2月
A マネジメント力	**①全体的な計画・教育課程の理解と実践**			
	園の教育・保育目標や全体的な計画・教育課程の内容について理解することができる。	C	C	B
	乳幼児の実態に応じた、クラスの長期・短期の指導計画を作成することができる。	B	B	A
	保護者との連携を十分に図り、乳幼児一人一人の生活について理解し、乳幼児の実態を把握することができる。	D	D	C
	②園目標のクラス経営への反映			
	クラスの長期・短期の指導計画に基づいた実践を行い、先輩保育者等の助言・支援の下、指導の過程について評価を行い、指導計画の改善を図ることができる。	C	C	C
	③園運営への参画			
	組織の一員として自覚をもち、協力的な態度で、自己に与えられた園務の内容を理解し、遂行できる。	C	C	C
	園務を遂行する上で生じた課題について迅速な報告・連絡・相談をすることができる。	C	B	A
	園務執行に必要な情報活用スキルを身に付け、正確な園務処理をすることができる。	C	B	B
	④危機に対応できる管理能力			
	事故防止の取組について理解し、乳幼児が安心・安全に生活できる保育の場の環境を整備することができる。	B	B	B
	危険を察知した際は、管理職の指示の下、迅速な対応等を行うことができる。	C	B	A
	⑤小学校教育との円滑な接続			
	小学校教育との円滑な接続の意義を理解し、ねらいを明確にもちながら、保育や交流活動等を実施することができる。	B	B	
	⑥地域人材や資源、情報の活用			
	地域・関係機関との連携の意義を理解し、ねらいを明確にもちながら、地域の資源を活用することができる。	C	C	
	情報モラルや情報セキュリティを理解し、業務に必要な情報を適切に取り扱うことができる。	C	C	
	年度末評価　A　25　%　B　25　%　C　25　%	D	0	%
B 専門的指導力	**①基本的乳幼児理解に基づき指導・支援する力**			
	管理職や先輩保育者等の助言の下、乳幼児一人一人の発達の特性を理解し、その特性やその乳幼児が抱えている発達の課題を把握し、保育に生かすことができる。	B		
	管理職や先輩保育者等の助言の下、乳幼児一人一人の発達の特性を踏まえ、それぞれの集団の中で、一人一人が主体的に周囲の環境に関わり、安心して自己発揮できるような保育をすることができる。	C		
	②家庭と共に課題を克服する力			
	連絡帳や園・クラスだより、電話、面談等を用いて、家庭と連携を図ることができる。	B		
	地域における子育て支援や、預かり・延長保育等、園の弾力的な運用について理解し、実践することができる。	C		
	年度末評価　A　0　%　B　0　%　C　0　%	D	0	%
C 保育実践力	**①保育における基本的な指導力**			
	環境の構成及び保育者の関わり等について、乳幼児の発達の理解に基づき、教材を工夫したり、乳幼児の実態に応じた環境を意図的に構成したりすることができる。	C		
	乳幼児一人一人の内面を理解し、個の思いに寄り添った関わりをすることができる。	B		
	記録や評価の重要性を理解し、ねらいに対する記録や評価をすることができる。	C		
	日々の保育を振り返り、次の実践及び改善に生かすことができる。	C		

C 保育実践力	**②秋田の探究型保育の実践力**			
	乳幼児が周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、興味・関心を抱いたことに存分に取り組むことができるような保育を展開することができる。	C		
	周囲との関わりの中で相手の思いや考えを受け入れ、経験したことを生かすことができるような保育を行うことができる。	C		
	③保育研究・保育改善を推進する実行力（ICT活用を含む）			
	園内外の研修会（研究会）の目的を理解した上で参加し、研修内容を他の保育者に報告したり、自身の保育等に活用したりすることができる。	C		
	研修会（研究会）に積極的に参加し、研修の成果や課題を生かし、自身の保育等を改善することができる。	C		
	乳幼児の直接的体験との関連を考慮し、保育の中で情報機器を活用することができる。	B		
	年度末評価	A 0 %	B 0 %	C 0 %	D 0 %
D 本県の教育課題への対応	**①ふるさと教育・キャリア教育の推進**			
	ふるさと教育・キャリア教育について理解し、身近な地域や自然環境の中で、積極的に人やものとの関わりを深める保育を展開することができる。	C		
	②“「問い」を発する子ども”の育成			
	“「問い」を発する子ども”の育成について理解し、安心できる環境の下、子どもが自己発揮できたり子どもの思いを受け止めたりする保育を展開することができる。	C		
	③特別な配慮を必要とする子ども一人一人の教育的ニーズに応じて指導・支援する力			
	特別支援教育、交流及び共同学習の意義やねらいについて理解することができる。	C		
	障害のある乳幼児の障害の種類や程度、特性等を理解することができる。	B		
	管理職や先輩保育者等の助言・援助の下、障害のある乳幼児に対して、個に応じた指導や支援をすることができる。	C		
	管理職や先輩保育者等の助言・援助の下、海外から帰国した乳幼児や日本語の習得に困難のある乳幼児に対して、個に応じた指導や支援をすることができる。	C		
	年度末評価	A 0 %	B 0 %	C 0 %	D 0 %

◆評価を踏まえ、2つの重点目標を設定して取り組みましょう。

分野	重点目標1（評価Ⅰを踏まえて）	分野	重点目標2（評価Ⅰを踏まえて）
	目標：（例） 記録や評価の在り方について理解し、ねらいに対する記録や評価ができる。		目標： ・自分の強みや弱みを考えながら目標を設定 ・到達目標なので「～できる」が基本
	方法：（例） ①要領から、記録や評価のポイントをまとめる。 ②記録や評価のポイントを基に、月末に自分の評価や記録の仕方を振り返る。		方法 ・いつやるのか、時間的スケジュールを可能な限り入れる ・何をするのか明確にする
	評価Ⅱ（B）（例） 毎月、評価のポイントを基に自分の記録の仕方を確認したことで、ねらいの意識や個々のよさや伸びを意識して見取るようになってきた。引き続き取り組みたい。		評価Ⅱ（　） A～Dのいずれかの評価を入れる
分野	重点目標1（評価Ⅱを踏まえて）	分野	重点目標2（評価Ⅱを踏まえて）
	目標：		目標： 評価Ⅱを踏まえて、ほぼ達成できたと思われる場合は、新たな目標を設定してもよい
	方法：		方法： 目標に近づいているが、まだ達成できていない場合は、そのまま継続又は方法を改善して継続する
	評価Ⅲ（　）		評価Ⅲ（　）
	次年度に向けて：		次年度に向けて：

ダウンロード先：「わか杉っ子元気に！ネット」⇒「研修情報」⇒「研修に係るお知らせ」⇒「各研修に係る様式等について」⇒「自己到達目標評価表」

【Ｑ＆Ａコーナー】

Ｑ：分野Ａ「マネジメント力」⑥「情報の活用」について、園務処理等での活用のことですか。

Ａ：先生方がパソコンで記録を打ち込む、メールを送る、ＨＰをチェックする、という類いの活用ではありません。（園務処理は、Ａマネジメント力③園経営への参画で評価）
ここでいう情報機器の活用は、「保育の中での乳幼児の直接的な体験をより充実させていくための情報機器の活用」のことです。

例：・園庭で見付けた虫をカメラで接写して肉眼では見えない体のつくりや動きを捉えたりすることで、直接的な体験だけでは得られない新たな気付きを得る。
・自分たちで工夫してつくった音などを聴いて遊びを振り返ることで、体験で得られたものを整理したり、共有したりする。
・体を使った活動や演奏の前などに、それらを映像で視聴することで、イメージをもちながら見通しをもって取り組んだりする。

> 要領解説に『乳幼児期は直接的な体験が重要であることを踏まえ、視聴覚教材やコンピュータなど情報機器を活用する際には、園の生活では得難い体験を補完するなど、園児の体験との関連を考慮すること』とあることから、情報機器を使用する目的や必要性を自覚し、活用することが必要です。

Ｑ：分野Ｂ「専門的指導力」②「園の弾力的な運用」という言葉が難しい。弾力的な運用とはどういうことですか。

Ａ：地域の実態や保護者の事情とともに、乳幼児の生活のリズムを踏まえ、一日の自然な流れを作り出すことが重要です。例えば次のようなことも弾力的な運用です。
例：・預かり保育を毎日希望する場合又は週の何日かを希望する場合、あるいは、幼稚園の設定した終了時間よりも早く帰ることを希望する場合など様々なケースが考えられるが、できるだけそれぞれの要望に応えるよう運用を図る。
・乳幼児が心身の負担が少なく、無理なく過ごすことができるよう、乳幼児の生活のリズムに配慮する。

Ｑ：「“「問い」を発する子ども”の育成」について理解ができません。どのようなことですか。

Ａ：本県では、２０１１年度から主体的・対話的で深い学びにつながる“「問い」を発する子ども”の育成に力を入れてきました。“「問い」を発する子ども”とは、「問題を発見し、他者との関わりを通して、主体的に問題を解決していく子ども」です。これは、就学前教育の基本である、環境を通して行う教育・保育の中で求める子どもの姿、「身近な環境に主体的に関わり、環境の関わり方や意味に気付き、これらを取り込もうとして、試行錯誤したり、考えたりする姿」と重なります。
参考：令和６年度学校教育の指針（Ｐ12～13）、アクションプログラムⅡ（Ｐ19～20）に記載されていますので、お読みになってください。

Ｑ：「探究型保育」とはどのようなことですか。

Ａ：「子どもが興味・関心を抱いたことに主体的に関わる中で、気付いたり、試行錯誤したり、考えたりしながらしたい遊びや生活に取り組めるよう支える保育」とお考え下さい。

Ｑ：分かりにくい言葉があります。

Ａ：互 恵 性～互いに特別の便宜や利益を与え合うこと。
（双方の子どもの育ちや学びにメリットがある。）
分　　掌～仕事・事務を手分けして受けもつこと。（園内での自分の分担等）
自己研鑽～自らの知識やスキルを向上させるよう、自分で努力すること。
建 設 的～物事を前向きに、現状をよりよくしていこうとする姿勢で臨む様子。

Ｑ：言葉の意味の捉え方に難しさを感じます。

Ａ：１～３年目の到達目標から順に読むことで意味が捉えやすくなります。

Ｑ：危機管理について、どんな事故等（種類）がありますか？

Ａ：安全な教育及び保育の環境を確保するため、乳幼児の年齢、場所、活動内容に留意し、事故防止に努めなければなりません。事故には、重大事故から不審者侵入等様々あります。

例：・災害（火事や地震等）　・不審者侵入　・乳児の睡眠時の窒息リスク
・プール遊びや水遊び　・誤嚥等による窒息リスク　・食物アレルギー
・熱中症　・害虫　等

詳しくは、平成２８年３月発行
『教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン
【事故防止のための取組み】～施設・事業者向け～』を参考にして下さい。

Ｑ：園での自分の立場では実施が難しい分野や、到達目標が高い分野があり、活用しにくいです。

Ａ：経験年数にこだわらず、自分の立場や状況、業務等に応じて、キャリアステージを選択することも可能です。また、分野毎に違うキャリアステージを選択し、活用していく方法も考えられます。

Ｑ：「適切な」の言葉に迷います。何をもって適切と判断してよいのでしょうか？

Ａ：自己評価後、管理職等との面談等で他者評価してもらうことで、「適切」だったかどうか判断できるのではないかと考えます。面談や話合い等で、ぜひ御活用ください。

Ｑ：０～２歳児までが在籍する園です。小学校との円滑な接続などに関して、どう記入すればよいか迷います。

Ａ：それぞれの年齢において、「育みたい資質・能力」を支える保育をしていくことが、小学校教育との円滑な接続の下支えになります。従って、指導計画については、「学びや育ちの連続性を意識した指導計画の作成」と捉えましょう。
交流・連携については、近隣の幼稚園等との交流・連携と捉えることも可能です。実践していない園は記入しなくても結構です。